

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コラソン（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年 1月 16日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行うことができている。	事業所が提供するサービス内容の説明はもちろんのこと、利用していただくにあたって必要な調整があれば、保護者の意向も聞き取りながら、方針を定められるようにしている。	福祉サービスの仕組みや必要な手続きについて尋ねられることもあるため、事業所の説明に加え、利用までに必要な準備についても合わせて案内できるように備えておく。
2	こどもにわかりやすく構造化された環境を整えることが出来ている。	一日の流れをイラストや写真で分かりやすく提示したり、次の行動への切り替えがスムーズにできるように、直前ではなく、前もって声掛けをするようにしている。	初めての活動などでは、見通しが立ちにくい児童もいるため、行き先や作るものなどを一緒に調べたり、周囲の人が実際に取り組んでいるところを見てからチャレンジしてみる等、その子に合わせたペースで見通しを立てていく。
3	日頃からこどもの状況を保護者と伝えあい、子どもの健康や発達状況について共通理解ができている	その日の健康状況を連絡帳で共有し合ったり、事業所での様子はもちろん、服用している薬や持病による変わった様子がないかを細かく送迎時に伝えるようにしている。 また、活動の様子を踏まえ、得意なことや苦手なことを話し合い、事業所と保護者との理解を擦り合わせるようにしている。	進級・進学などで環境が変わったり、普段とは違った様子が多く見られるようになった時に、送迎時での情報共有だけではなく、個別での面談などを提案し、リアルタイムで児童について共通理解を深められるように努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他のこどもとの交流について伝える工夫が足りない	前年度の改善点を踏まえ、地域で行われているイベント（福祉フェスなど）に参加したり、農福連携の公共施設に赴き、そこで地域の子どもたちと交流をする機会を持つことは出来ているが、保護者への発信が足りない。	個別面談や送迎時に、地域の他のこどもたちとの交流について細かく共有したり、地域イベントへの参加や公共施設での活動を行った時には、ホームページ上のブログなどを活用して、その時の詳しい様子を発信できるように内容を精査していく。
2	家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の機会が少ない。	児童との関わりで悩んでいる保護者から個別で相談を受け、家庭での支援方法などを一緒に考える機会はあるが、事業所側から、利用者全員に広く声をかけることは少ない。	家庭の都合や進級・進学などで環境が変わったり、普段とは変わった様子が見られるようになってきた児童については、事業所側から保護者の困りごとなどを聞き出し、家族支援に繋がれるように努める。
3	定期的な避難、救出訓練などの実施に関する周知が不足している	訓練を実施する際は、プログラム表に組み込んだり、訓練の様子などをブログを通して発信しているが、保護者の目に留まりづらい。	訓練を実施した日には、送迎などで訓練内容を伝えたり、防災体制についても共有を行う。 また、新しく利用される保護者には、契約時などに、定期的に訓練を実施している旨を伝えていく。